



特集

イクジイの孫育て

ぼう だ あき こ
棒田 明子さん

(NPO法人孫育て・ニッポン理事長)



旅行雑誌、育児雑誌の編集などを経て、子ども関連の企画・制作を担当。妊娠中から1歳までの赤ちゃんにパバママが詩を贈る「トツキトウカ」プロジェクトも手掛ける。

著書に「祖父母に孫をあずける賢い100の方法—祖父母も孫もママもみんなハッピー—」がある。

育児に積極的に参加する父親たち・イクメンに続いて、未来を担う子どもたちに積極的に関わろうとするイクジイが今、注目されています。

でも、いざ行動するとなると、どう子どもたちと接すればよいかわからないおじいちゃんたちも多いかもしれません。

そこで、今回は、NPO法人孫育て・ニッポン理事長の棒田明子さんに、いまどきの孫育てについてお話をお伺いしました。

「孫はかすがい」 うまれてきた

小さな命をみんな育てていこう

■現在の活動について教えてください。

現在は、「孫育て」をキーとして活動しています。もともとは子育てをしていくお母さんの負担や不安を少しでも軽くできないかと活動をしたのがスタートです。私は子どもが育つ上で家族がとても大切だと思っています。家族がハッピーになれば、子どももハッピーになる。そう考えたときに、「おじいちゃんとおばあちゃんも大事な家族の一員だ」と思いました。私は祖母と同居していたのもあり、おじいちゃんやおばあちゃんを持っているやさしさなどを肌で感じ育ちました。「おばあちゃん存在ってこんなに大きかったんだ」と私が気づいたのは、自分が出産し、子どもと接しているときでした。

そこで、「子育て」というところからもう一步広げた「孫育て」という言葉を使って、10年前、おじいちゃんやおばあちゃんたちにメッセージを発信し始めました。

今は、「うまれてきた小さな命を家族みんなで育てていこう」をテーマに情報発信を行っています。

■家族がハッピーになるためには、何が必要でしょう。

「家族だからわかり合えて当たり前」と思いがちですが、それは違います。うまくいっている家族の話や、コミュニケーションを良くとる、感謝の気持ちを忘れないなどがあります。昔は、「子がかすがい」と言いましたが、今は「孫は両家のかすがい」ですね。

ママ側の家族、パパ側の家族のそれぞれで孫はかすがいなのですが、赤ちゃんはこの両家のかすがいでもあるのです。もしも赤ちゃんがうまれてこなければ、なかなか会う機会はありません。孫というのはすごい存在なのです。

